

# 広島城北中学校

入試科目	算数	国語	理科	社会	総合	
試験時間	50分	50分	40分	40分	—	
配点	125点	125点	100点	100点	450点	
受験者平均点	77.7点	83.1点	52.8点	71.1点	284.7点	
合格の目安	得点	55点	57点	37点	51点	200点※
	(%)	44.0%	45.6%	37.0%	51.0%	44.4%
昨年度との比較	やや難化	やや難化	横ばい	横ばい	難化	

※当社予想

## 算 数

- 1 計算と一行問題 (1)①小数の計算 ②分数の計算 (2)逆算 (3)つるかめ算 (4)比  
(5)食塩水の濃度 (6)売買損益 (7)おうぎ形の面積 (8)旅人算 (9)推理
- 2 植木算—色紙をつなげる 小問数：2
- 3 平面図形 小問数：3
- 4 時計計算 小問数：4

大問数や出題単元は例年とほぼ同様です。

1 (1)計算、(2)逆算、(3)つるかめ算、(4)比、(5)食塩水の濃度、(6)売買損益、(7)おうぎ形の面積、(8)旅人算、(9)推理とバランスのよい問題構成になっています。例年通り、基本問題が中心の基礎力の定着が判断できる構成になっています。難しい問題はありませんので、計算ミスに注意して、時間をかけてでも確実に正解することを

心がけましょう。

2 は植木算の問題です。植木算の問題として色紙の枚数よりのりしろの数が1つ少ないと考えるか、規則性の問題として1枚目は $12\text{cm}^2$ 、2枚目以降 $10\text{cm}^2$ ずつ増えていくと考えるか、分かれるところだと思います。(1)は4枚しかないのでもどちらで解いても大差はなく、ほとんどの受験生は正解だったでしょう。(2)は植木算として考えるより、

規則性の問題として考え  $12+10\times\square=592$  を計算した方が簡単でしょう。また(2)は、赤・白・青・黄の周期で色紙が並んでいることと、59枚の色紙がつながっていたという結果から、赤ではなく青か黄の枚数を問題にした方が正答率は下がったでしょう。そのあたりは受験生への配慮でしょうか。

③は平面図形で相似三角形を利用して辺の比を求める中学入試頻出問題です。(2)で補助線を引く必要がありますが、この類の問題は受験生はみな1回は解いたことがあるはずなので問題なかったと思います。

④は時計算の問題です。この大問もオーソドックスな問題で、どの受験生も解いた経験があったでしょう。(1)(2)の長針、短針が1分間に何度進むかなんて暗記レベルだったでしょう。何も考えずに6度、

0.5度と解答した受験生も多かったのではないのでしょうか。(3)(4)は長針と短針が初めて直角になるとき、4回目に直角になるときの時刻を求める問題ですが、長針と短針の進んだ角度の差が180度になるたびに直角になることに気づけば(3)(4)まとめて解答できたでしょう。

今年度の広島城北中学校の入試も基礎力を問う小問集合と、読解力、思考力を問う大問とバランスよく出題されています。数年前までよく出ていた時間がかかる大問も近年なくなっていますので、まずは基本問題をミスなく正確に解くことが重要になります。基本標準レベルの問題演習で基礎力を養い、過去問演習等の総合演習で正確な解答力、特に整理して考える力を養っておくことが、最良の対策となります。

## 国語

一 はらだみずき『ここからはじまる 父と息子のサッカーノート』(物語文 約2900字 小問数20問 うち記述3問)

二 小林朋道 『ヒトの脳にはクセがある 動物行動学的人間論』(説明文 約3000字 小問数18問 うち記述3問)

今年も例年通り、説明文と物語文の大問各1題の構成で、基礎から標準レベルの良質な問題ばかりが出題されています。

本文の字数が減少しましたが、昨年が6000字、今年が5900字でしたので大きな変化ではありません。

記述問題は増加しました。昨年は、説明文で1問(80字)・物語文で1問(60字)の2題でしたが、今年は説明文で3問(25・字数指定なし[解答欄から20字程度]・40字)・物語文で3問(5・25・60字)の合計6問でした。しかし、記述が必要な文字数合計で比べてみると、昨年は140字、今年が約175字で、30字程度の差しか見られません。また、記述問題を除く小問数の合計を見ると、昨年は39で今年が38とこちらも大き

な変動はありません。これらを踏まえて考えると、記述問題が増えてはいますが、全体的な分量としては大きな変化はなかったと言えるでしょう。それでは、大問ごとに設問内容を見ていきます。

一 物語文の読解問題です。昨年と同様に、父親の視点から展開していく物語で、小学三年生の勇翔(ゆうと)の夢はプロサッカー選手です。父(拓也)は、息子に現実を気づかせるため、無謀と知りながらもJリーグ下部組織のセレクションを受けさせました。それをきっかけに勇翔は「サッカーノート」を書き始め、拓也は子供のスポーツに過熱する親たちの中で、息子との向き合い方を見つめ直していくこととなります。スポーツを通して親子二人の成長と、子育てのリアルな悩み、喜びを描

いた物語です。問題文ではセクションを受け、結果が出る場面が描かれています。子供の視点ではなく父親の視点から物語が展開しているので、心情のイメージがしにくいかもしれません。

設問内容は、問一は漢字の書き取りで基本的な漢字が並びましたが、「無茶」「次第」「不意」などは難しかったかもしれません。問二と問三が心情の選択問題、どちらも勇翔の動作から心情を読み取る問題でした。「口をすぼめる」や「唇をとがらせる」などの慣用表現の意味をおさえていないと難しい問題です。問四は勇翔の「右腕を上げ、目の高さで横に拭った」という動作の意味を答える記述問題でした。本文の表記から実際の動作をイメージしにくかった受験生もいたと思いますが、「目の高さ」と2行後に「目をしょぼつかせた」から「涙をぬぐう」ということを書ければよいでしょう。問五は勇翔の台詞の内容について問う問題。問六と問七は心情の選択問題ですが、父や家族の心情を考える問題です。どちらも本文と照らし合わせながら丁寧に選択肢を吟味する必要があります。問八は難しく感じた受験生が多いと思われます。父の心情を記述する問題でしたが、「鼻の奥に痛みを感じながら」＝「泣きそう」からその涙の意味を考え、さらに「遠くに目をやった」＝「何を見ようとしていたのか」を考え、両方の内容に触れながら60字以内でまとめる記述力を求められます。

□説明文の読解問題です。ヒトの脳は、狩猟時代から進化していません。あの頃の生存と繁殖に必要な能力のままなので、脳には人間特有のクセが残っています。動物行動学者である筆者が、動物行動学的視点からヒトの行動を分析したユニークな論考です。

設問内容は、問一は漢字の読み書きで、□と同様に基本的な漢字が出題されています。問二は内容の記号選択問題で、傍線部の直前の内容と選択肢を比べて選択します。問三は指示語の指す内容に関する記号選択問題で、傍線部直後の内容から読み取れます。ただし、指示語の指す内容を後ろから探すケースは珍しく、探すのに苦労した受験生もいるかもしれません。問四も指示語の指す内容に関する問題ですが、こちらは記述問題。「それら」に続く「生存・繁殖に有利になる影響」という内容を手がかりにして、前から答えを探せます。問五は指示語の指す内容に関する記号選択問題です。基本通りの考え方で解答を導けます。問六と問七は内容に関する記号選択問題です。直前の内容と選択肢を照らし合わせ、正解を導く基本問題でした。問八と問九は難易度の高い記述問題でした。本文の内容に関するものではなく（全く関係ないわけではありませんが）、説明文の筆者の主張を踏まえたうえで、物語文の勇翔を見た場合、どのような内容になるかをまとめる問題でした。文字数こそ40字と少ないものの、物語文と説明文の両方の内容を踏まえる必要があります。この2題だけを見ても、内容把握と記述力が求められていることがわかります。2017年に修道中学校で似たような出題が見られました。

鯉城学院編集・作成の「中学入試国語出典読書案内」を参考にして頂き、説明文は、岩波ジュニア新書・ちくまプリマー新書などの中高生向けの新書レベルを筆者の論理展開を理解することを意識しながら、また物語文では、登場人物の心情を丁寧に読み取ることを意識しながら、しっかりと読解練習をしましょう。

## 理 科

- 1 化学分野から、食品てん加物と溶解度 に関する問題（小問6）
- 2 物理分野から、太陽光と光電池 に関する問題（小問7）
- 3 生物分野から、サクラの芽生えの成長とその環境 に関する問題（小問8）
- 4 地学分野から、地層や化石 に関する問題（小問7）

例年通り、今年も生物・化学・物理・地学の4分野からそれぞれ1題ずつの大問4題の構成で、バランスよく出題されています。近年の同校の大きな傾向として、記述問題において単に理科の知識を問う問題ではなく、問題文における条件や結果、考察状況など様々な観点で読み取らないと解けないような問題が多く出題されています。

1 食品てん加物と溶解度に関する問題でした。食品てん加物という言葉はあまり聞き慣れないかもしれませんが、問題文に説明書きがあるので、その時に理解した受験生も多かった事でしょう。問1～問3は、問題文をよく読めば受験理科の知識で十分対応できました。問4は、温度とものの溶け方の違いを記述する問題で、グラフを基に記述していけば良いので、問題なかったでしょう。問6は、まずグラフからミョウバンの溶ける量を正確に出していきます。あとは、水の量が100mLになっているので、そこに気を付けて計算していく必要があります。

2 太陽光と光電池に関する問題でした。問1～問3は、太陽光を鏡で反射させて、温度計の温度がどうなったかを調べた実験です。与えられた条件に従って、正確に実験内容を把握していく必要があります。問4・問5は、2人のうち1人が鏡を持って温度計に近づいた時に、温度がどう変化するかを考える問題です。近づいたことで温度が上がるのか、それとも変わらないのか、多くの受験生がとまどったかもしれません。鏡で太陽光を反射させていることに注意が必要です。問6は、光電池を題材にプロペラだけを逆回転させるには、流れる電流の向きを逆にすることに注目して考えることができたかです。あとは、電流の流れる向きに

気を付けて、回路を考えます。問7は、太陽光に直接当たる場合と太陽光を鏡で反射させた場合で何が違うのかを考えないといけません。どれだけの受験生が、正解にたどり着いたのか興味深いところです。

3 サクラの芽生えの成長とその環境に関する問題でした。問1は、どういう計算をしたらいいか迷った受験生もいたかもしれませんが、表の下にある文章を手掛かりにすれば、簡単に計算できた問題でした。問3は、根のはたらきにおいて、水や養分を吸収する以外では、からだを支えるはたらきがあります。思い付くのに時間がかかった受験生も多かったのではないのでしょうか。問5は、A～Cの林でどの期間で一番減っているかを、表から生き残っている芽生えの割合を正確に読み取れば正解できました。問6は、それぞれの選択肢を地道に調べていくしかありません。表や問題文を正確に読み取る力が求められています。

4 地層や化石に関する問題でした。問1は、標本の説明から化石であると言えるものを特定していく問題ですが、特に受験理科の知識がある訳ではありません。化石と言えるには条件があり、問題文にも書かれているので、それを基に選択肢と比較していきます。問2・問3は、火山灰の特徴についての問題で、地層の単元では頻出事項です。記述問題では特徴が押さえられていれば、正解できたでしょう。

同校の入試問題は受験理科の力だけでなく、問題解決能力を試すような問題もある入試問題です。重要なことは、問題文の中にある解答に必要な情報をどれだけ正確に読み取る事ができるかだと思います。

## 社会

- 1 《地理》 日本各地の地理、及び関わりのある外国に関する問題(16問)
- 2 《歴史》 日本と周辺地域との関わりについての問題 (12問)
- 3 《歴史》 日本の歴史についての総合問題(10問)
- 4 《公民》 政治に関する総合問題(9問)

昨年度、思考力を試す文章記述問題を大幅に増やす方向に舵を切った城北中学校の入試問題ですが、今年は知識問題とのバランス調整がされ、問題数も昨年の35問から47問へと増えました。ただし、増えたといっても一昨年前と同じくらいの問題数に戻っただけで、昨年度の受験者平均点74.3点に対し、今年は71.1点であったことから、難易度もあまり変わらず、取り組みやすい問題であったといえます。

①は日本地理中心の問題でした。基本的な都道府県の知識を問う問題が中心でしたが、問2ではいわゆる社会用語ではなく、空欄に当てはまる文を答える問題がありました。単なる語句の暗記ではなく内容を理解していることが求められ、シラス台地がなぜ水田に向かないのかなどを記述しなくてはなりません。その他、日本に身近な4つの国について問う問題がありましたが、歴史の知識と合わせれば答えられたのではないのでしょうか。出題形式が変更されても、問われているものは基本的な知識が中心となっていました。

②は日本と周辺地域についての問題でした。歴史の問題が地理よりも多く出される傾向は城北中学校も変わりません。その中で問10では「竹崎季長が元寇の戦いのあと、鎌倉まで出向いた理由」を答えさせる問題がありました。竹崎季長という人物を知っていれば難しくはなかったと思いますが、①と同様、単なる語句暗記で終わっていないかが試されています。その他は基本的な知識問題で取り組みやすかったと思いますが、記号選択問題では、正しいものを選ぶ問題と誤っているものを選ぶ問題とがあるので、しっかり確認する必要があります。

③も歴史の問題です。ここでも基本的な語句を問う問題が中心でしたが、問3で「おいもは大切な主食物」という広告が戦時中に作られた理由を答える問題がありました。戦時中が食料不足であったことが浮かべば、答えるべきことは分かると思うのですが、あとはそれをきちんと文章にまとめることができるかどうかです。文章記述問題が増えている傾向にある以上、きちんと文を作ることができる国語力も必要となります。

④は政治に関する総合問題でした。問題文で会話文形式が取られるなど、大学入試改革(高大接続改革)が意識された問題の作りとなっていました。問われているものは基本的な知識が中心でした。今年参議院議員の選挙があることから、そこに触れている文章もあったので、やはり世の中の動きには関心をもっておく必要があります。問4は、空き家に関する資料の読み取り問題となっていました。資料自体も素直に読み取ることができるものであったため、わかりやすかったのではないのでしょうか。

昨年と比べ、思考型の問題と知識を問う問題のバランス調整がされています。昨年は解答が複数ある問題が多かったため平均点が高くなりましたが、今年は解答が1つになる知識型の問題を増やしました。それでも平均点が高いままであったため、来年はもう少し思考力を試す問題と知識問題とのバランス調整がされるかもしれません。文章記述問題にも対応できるように、基本的な語句暗記とともに、その内容を自分の言葉で説明できるように勉強していくことが大切です。